

# 季報

No. 81

2011(平成23)年  
12月



『ぼっけもん』  
©いわしげ孝/小学館ビッグコミックス

## 目次 特集 漫画学

- ◆ P2 漫画テキストと物語時間 江藤茂博
- ◆ P3 漫画としての『鳥獣戯画』 小山聡子
- ◆ P4 栄花の夢—黄表紙について— 白井雅彦
- ◆ P5 貸本マンガのある風景 志村三代子
- ◆ P6 手塚治虫はなぜ読まれるか? 今井克佳
- ◆ P7 九段校舎・柏校舎 図書館だより
- ◆ P8 柏校舎 図書館だより

## 漫画テキストと物語時間

文学部長 教授 江藤 茂博

### 1 映像テキスト

絵本、漫画や紙芝居、さらに映画やアニメなどのさまざまな映像が、私たちがそこに表象された物語の受容者とする。もちろん、言語表現を主とする文芸的なテキストであっても、絵を使ってその物語の補足を受容者に差し向けることもある。書物、モニター、スクリーン、携帯の画面、街の広告など、映像という視覚的な表象を含む物語的なテキストは、今日、身の回りに満ち溢れているのだ。ここでは、映像テキストのひとつである漫画について、物語研究の視点からすこし考察を重ねてみようと思う。もちろん、絵と言葉との相互補完的な力学が交錯する、こうしたテキスト生成の場では、言語表現や映像表現単体の力学もまた働くことになる。それらが複層化された、かなり複雑な磁場に漫画テキストはあるのだ。それを紐解くために、物語時間の生成について考えようと思う。つまり、漫画テキストの特質と、そのテキスト分析のひとつの方法を、物語時間の問題として確認したいのである。

### 2 時間と空間とコマ

物語が誕生するには、現実とは異なる時間と空間が必要となる。単純な言いかたをするならば、物語のはじまりと終わりの異時空間が必要だろう。その出来事が現在の時空間そのままでは、物語として顕在化することはできないのである。漫画は、その誕生がコマによって瞬間と空間とを切り取ったという意味でも、そこに絵柄としてのテキスト空間が誕生している。もっとも、一カットの漫画絵ならば、生まれているのは、はじまりがそのまま終わりという一瞬の時間であり、それを物語時間と呼ぶとすれば、おそらく受容者側があらかじめ用意した時間を含む物語が解読に必要となるだろう。では、はじまりから終わりまでという経過時間を手にする物語時間を、漫画は、どのように手にいれてきたのだろうか。確かに、コマが誕生した時に、時間と空間が瞬間として切り取られたことは間違いない。そして、その切り取られた時間と空間には、まず説明のこぼれや文などが加わることで、経過する時間が誕生したようである。それは、いささか文芸的な物語要素からの時間を入手したということ

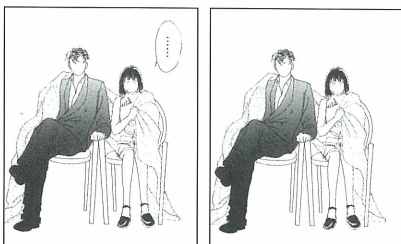
だ。漫画絵と言葉とが結びついて、いわゆる読み物としての漫画テキストがそこに誕生したのである。

### 3 漫画の物語時間

漫画に添えられたこぼれ・文・文章は、やがて吹き出しとなって、そのコマに物語時間を生成させた。もちろん、吹き出し自体も時間を生む(1)。さらに、コマの中のいろいろな線が、その動きの意味を表すことで、そこにもまたさまざまな時間は誕生している(2)。ひとつのコマの中で、重層する時間が、やがて漫画を物語と呼ぶに十分なテキストを誕生させていくことになったのだ。また、ひとつのコマは、閉じられた時空を示しながら、他のコマとの関係性を示す。たいていは、通時的な連鎖による物語時間の誕生ということになるのだろうが、もちろんそればかりではない。少年向け漫画が規則正しくコマを配置して、通時的な時間を提示したのに対して、少女マンガのコマは、それ自体が重奏し、独自の時空を表象してきたことは、ここであえて繰り返すまでもない。

### 4 物語のリズムと絵画性

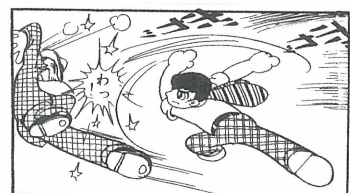
コマで縁取られたさまざまな時空の通時的な連鎖による、いわば視覚的な物語のテンポは、テキスト受容者が、そのコマとコマの間にさまざまな時間をさらに組み込むことで、物語のリズムとなる。もちろんコマの通時的な連鎖によるものだけでなく、劇画のように、リアリズムを志向する現実感のあるリズムもあれば、少女マンガのように、コマのさまざまな審級をページに配置することで仕掛けられる抒情性豊かなリズムもある。特にこの少女マンガの表現文法が生む独特なスタイルは、それまでの少女文化が持っていた絵画性(3)が、漫画表現の世界に重ねられたものだと思う。このように物語時間の表現と推移とに軽く触れるだけでも、漫画テキストが表象する多様な世界をうかがい知ることができる。さて、漫画テキストの豊かな世界をどのように解読するのは、いま私たちの目の前に差し向けられているのだ。



(1) 神尾葉子「花より男子」完全版vol.9/集英社(初出1996-97)



(2) 高橋真琴「さくら並木」(初出1957)



(3) 手塚治虫「魔神ガロン」/秋田書店(初出1959-60)

## 漫画としての『鳥獣戯画』

文学部 准教授 小山 聡子

『鳥獣戯画』(平安時代末期から鎌倉時代初期の制作、高山寺所蔵)の第一巻は、蛙や兎、猿などの動物を擬人化させて遊び興じる姿を描いた絵巻物である。『鳥獣戯画』には、躍動感あふれる動物たちの姿が描き込まれており、俗化した僧侶に扮した猿も描かれるなど、風刺の意味も込められている。

さて、『鳥獣戯画』には、漫画の原形としての要素を数多く確認することができる。たとえば、次の絵を御覧いただきたい。(左下)この絵には、蛙と兎が相撲を取っている様子が描かれており、なんと蛙が兎の長い耳に根元から齧り付いている。**がぶっ!兎「いたたた たっつ!!!何するんだよお!」**という声が聞こえてきそうである。ちなみに、当然、この時代における相撲でも、相手に噛み付くのは反則である。兎は、蛙による突然の反則にびっくりして目を丸くしている。蛙は、兎の耳に齧り付いて相手の意表を突き、その隙にぐっと力を入れて右足を兎の左足にかける。

次の場面を見てみると、兎は見事に地面に転がされてゲラゲラと笑い、蛙はいかにも得意げな表情で何かを叫んでいる。蛙の口からは、煙のようなものが出ている。これは、まさしく現在における漫画のセリフに相当するといえよう。ここには、何も言葉は書かれていないが、蛙**「わぁ〜い、勝った、勝った〜!!!」**という言葉がいかに聞こえてきそうである。また、転がされた兎の背中ら、他の箇所比べて一際太い線で表現されている。絵巻の鑑賞者は、この線により兎が勢いよく転んだことを感じ取ることができる。現在の漫画で頻繁に使われている、特有の記号(漫符)以上の効果を、この線一本で自然に表すことができているといえよう。蛙と兎による相撲を周りで見物していた3匹の蛙たちは、彼らの滑稽な相撲の結末を見て大笑い。笑いすぎて、左に描かれている蛙などは、地面に這いつくばり、息をするのもやっとなという体である。「げええこ、げええこ」。

他の場面も、(右下)見てみよう。これは、僧侶に扮した猿による法会の場面である。仰々しい袈裟を着た猿の口からは、先ほどの相撲を取っていた蛙と同様に、煙のようなものが出ている。おそらくこの猿は、「な〜ま〜んだ〜♪」と阿弥陀経の読経をしているの

であろう。さらに笑いを誘うのは、仏像に扮した蛙である。大真面目な顔をして真一文字に口を結び、手にはまるで来迎印のような印を結んでいる。台座の上でじっとしているのは、さぞかし足がしびれることだろう。

さて、読経をする猿の後方には、烏帽子をかぶった兎や市女笠をかぶった狐が描かれている。つまり、この兎は、烏帽子をかぶっていることから男性であり、狐は市女笠をかぶっていることから女性である。このように『鳥獣戯画』では、かぶり物によって男性であるか女性であるかを描き分ける工夫がなされている。この絵巻物では、セリフや説明書きがなくても、絵から様々な情報を得ることができるよう、細かい配慮がなされているのである。

言わずもがな、この絵は、世俗化した大寺院の僧侶を風刺したものである。その証拠に、次の場面では、読経をしていた猿は、豪華な饗応を受け、虎皮や布などのいかにも高価な被物をもらっている。『鳥獣戯画』では、猿は悪賢く小ずるい性質を持たされている。これは、『鳥獣戯画』制作時における猿のイメージによると考えられる。

また、興味深いのは、場面の区切り方である。仏像に扮した蛙の後方には、大きな木が描かれ、場面が区切られている。漫画では、通常、コマ割りによって場面が分けられる。それに対して、絵巻物にはコマ割りはない。絵巻物では、コマ割りが無い代わりに、このように樹木などで場面を区切り、または先ほどの相撲の場面のように広めの空白をもうけることによって区切る。さらには、霞や雲で、時間や場所が変化することを表す場合もある。『鳥獣戯画』における場面の切りかえでは、樹木や空間などが自然な形で非常に効果的に用いられている。

『鳥獣戯画』には、通常の絵巻物にはあるはずの詞書がない。しかし、以上に述べたように、『鳥獣戯画』の絵には、実に巧みな工夫が施されている。それによって鑑賞者は、絵のみから十分に多くの情報を得て、楽しむことができる。『鳥獣戯画』にセリフや詞書を加えることは、かえって無粋というものだろう。『鳥獣戯画』には、一切文字がないことから、「純粹漫画」とでもいうべき魅力がある。



新修日本絵巻物全集4「鳥獣戯画」/角川書店

## 栄花の夢 —黄表紙について—

文学部 非常勤講師 白井 雅彦

『栄花の夢』を御覧とかいう「金々先生」の隣人「萬々先生」のお話。

代々栄耀にして七珍万宝が蔵に満ち、しかも日々増える。せめて三日なりとも貧乏になりたやと、萬々先生毎日に床の間の貧乏神様の絵像軸を拜むもしるしなし。そこで先生、町人には禁忌の信用貸し高札を門に掲げる。返済のあてある者、保証人のある者には貸さない。しかし金蔵は百分の一も減らない。こうなりや廊で散財しようとして繰り出し、「福は外、鬼は内」と声を張って黄金を播くも、遊女屋亭主は怪しみ、金を取り集めて強制退抛。失意のうちに駕籠に乗れば先客の忘れ物と覚しき四五百両入り財布。これを押しつけられては金が減らぬ迷惑、知らんふりで駕籠をおりて家へ向かうが、ご丁寧にくだんの駕籠かき、事情も聞かずに忘れ物だと財布を押しつけやがる。家に帰り手代を使って高値の銘柄米を買占めるが、米の無駄買出費など知れたもの。博奕なら大損できると聞いて、確実な損のために、通常当たりの四倍を七倍返しの胴元となつてなうての博徒を集めるが、この日ばかりは博徒も貧乏神に憑かれたか、空目続きで萬々胴元大儲け。手代を富くじの無駄買いに走らす、貧乏神様に見放された萬々、神田の明神様も湯島の天神様も、本所の弁天様でも皆一番大当たりの因果。こうなりや盗人様たより、壁に穴うがち、金蔵までの案内に小判を敷並べて、自身も家人も皆すべて外にやり、萬々先生愈々念願の貧乏が叶うかと上機嫌。実に盗人様で来訪下さるが、あまりの大金ゆえ持出す工夫の談合長引く。空が白むころワクワクウキウキ萬々先生夜明けを待ちかね戻る声、聞いた盗人は、行きがけの駄賃とばかり他家で盗んだ金箱すら置いて逃げてゆく。……また金が増えている。費えの策に上方への旅を思いつく。途中江の島へ参詣し妙案に至る。地元漁師を一同に集め、ユニフォームを新調し地引網で一食の魚を漁らせるが……

とまあ、ここまで来れば、賢明なる本稿読者諸氏のこと、いかなる展開かご想像も容易のはず(白井)

先を急ぐが、荒天大雨続きで富士川が川止めに。上方旅行は断念しても長逗留は散財の好機と思うところへ江戸からの書状。荒天で米相場が急高騰し、先の買占米が更に高値となって大儲けせざるを得ない失敗商いの報告。こうなりや焼けクソ三保の松原を買取って、松を掘らせて江戸まで運ばせりやと発案し、請負人入札も最高額に落札させていざ松を掘り返せば……

どうなったかは諸氏ご期待通り(白井)

あまりの不運に萬々腰抜き、巨萬の黄金とともにご帰宅。もはや万策尽きて人足雇い、三十余戸前の金蔵小判を皆、恨み骨髄不倶戴天の仇とばかり投げ捨てさせる……や、かね播く豪気に天

も感じ、俄かに竜巻発し、投げ捨てた金はおろか、世間の金銀も巻き上げ倍増しになって飛び帰る。もはやこれまでと萬々先生、出奔せんと山野へ向かう途中、先に信用貸した連中が皆商売に大成功。先生への恩返しと元利揃えて追いかけ、先生戻らぬ場合は訴えてでも受け取らせると。こうして萬々帰宅し、千両はおろか、万両箱に埋め尽くされた家で窮屈な生涯を送るとさ。げに恐しきは「おかね」

以上は天明五年(1785)刊、唐来参和作、千代女画の黄表紙きるなのねからかねのなるき『莫切自根金生木』(外題が回文)の梗概である。直木賞作『手鎖心中』をはじめ、江戸戯作者への理解深い井上ひさしが最も好きな戯作の一品としてあげていた。地引で海底の黄金を引上げ、松の根返せば千両箱をぎっしり詰めた唐櫃が付いて出るなんざあるわけねえ、など野暮は言いっこなし。そんなナンセンスな漫画が十八世紀末に大量に板行された。ナンセンス・パロディ漫画の「黄表紙」、英雄豪傑ヒーローを描く劇画調の「青本黒本」、メルヘンチックなお伽話で少女コミック風の「赤本」など、表紙の色で作品傾向を見分ける、総称「草双紙」は800点ほど現存確認されている。近世文学史にあつて「寛政の改革」前夜の僅か30年ほどの短期にパッと咲いた世紀末の仇花のような存在である。

欧州主要都市の識字率が2割に満たない時代に、それが町人でも男女とも過半の町江戸、百万人口のうち識字層の武家が半数いたから、文盲は町に3割もいない計算になる。驚異的な、豊かな教養都市江戸であつてこそ、「黄表紙」は流行しえたのである。

ところで先の『莫切自根金生木』は、先行研究に指摘はないようだが、私は秘かに『徒然草』第217段がモチーフではないかと想像している。兼好法師曰く「貧富分く所なし。究竟は理即にひとし。大欲は無欲に似たり」のパロディとして読めよう。

私自身は、財をなした経験がないので、兼好法師の卓見をいまだ実感していない。……えっ、これ原稿料出ないの？ あ～あ。



『莫切自根金生木』最終頁

## 貸本マンガのある風景

文学部 非常勤講師 志村三代子

2010年3月から同年9月まで放映されたNHKの連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』のブームにより、「ゲゲゲの〜」という言葉が2010年度の新語流行語年間大賞を受賞したことは記憶に新しい。漫画家の水木しげるとその妻・布枝との風変わりな結婚生活が生き生きと描かれた『ゲゲゲの女房』は、かつての「昭和」という時代を知る大人には懐かしく、また昭和後期～平成生まれの若者にとっては新鮮に映ったにちがいない。とくに視聴者の目を引いたのは、ユーモアを交えた夫妻の極貧生活であったのかもしれない。しかしなぜ、水木夫妻はこれほどまでの貧乏を強いられたのか。それは、ひとえに妖怪マンガ家として著名になる以前の水木しげるの職業が貸本漫画家であったからだ。

現在ではほとんど耳にすることがないこの「貸本マンガ」とは、貸本屋で提供されたマンガのことである。貸本マンガ史研究会編『貸本マンガRETURNS』(2006年、ポプラ社)によれば、戦後生まれた貸本屋は、1948年に神戸に登場した「ネオ書房」が採用した「保証金なし」「新刊貸本」という貸し出し方式に始まる。貸本屋では、本を借りる際に、保険証などで身元確認がなされれば、誰でも簡単に本を借りることが可能であった。主に雑誌や小説などが貸し出されていたが、書棚を占めるマンガの割合が年々高くなり、1958年頃には過半数を占めるようになったという。ピーク時には三万軒あったとされる貸本屋は、駄菓子屋、文房具店、古本屋などの店舗を改装して営んでおり、零細な個人商店が大半であった。貸本マンガの内容は、時代劇、探偵・ミステリー、少女もの、怪奇、青春ものなどバラエティに富んでおり、さながら現代のマンガ市場の多様性を先取りしていた。だが、貸本マンガは、当初から「おもちゃまんが」と揶揄されたように、なかには粗製濫造の稚拙な内容のマンガも掲載されていたが、それでも貸本屋を訪れる子供たちは、先を争って貸本マンガを求めたのである。というのも、貸本マンガが隆盛を誇った1950年代後期のマンガを取り巻く環境は、大手出版社が男児、少女向けの雑誌を発行していたものの、その種類もまだまだ少なかったからである。

1956年に大阪の八興(貸本マンガ専門の出版社)が刊行した短編漫画誌『影』の好評による短編誌のブームを経て、年少者を中心とした貸本マンガ市場にも変化があらわれた。それが1959年以降の「劇画」の登場と、それに伴う読者層の変容である。「劇画」という言葉の発案者であるマンガ家の辰巳ヨシヒロによると、「劇画」の読者層は「子供から大人になる過渡期」であり、こうした「劇画」の読者の大半は、中学を卒業したあと、家計を助けるために就職した若年労働者たちであった。1956年の経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言し、日本もようやく戦禍からの復興の兆しを見せていたが、しかし、いまだ空襲の傷痕が残った市中も少なくなく、庶

民の生活は豊かとはいえなかった。1956年当時の高校進学率は60%を切っており、若年労働者として過酷な労働条件で働いた彼らは、その束の間の余暇で貸本マンガを貪り読んだ。貸本マンガが描く波乱に満ちた物語に時には反発、共感しながら主人公にエールを送っていたのである。さらに、『忍者武芸帳 影丸伝』(白土三平、1959年～62年刊行)や『黒い傷痕の男』(佐藤まさあき、1961年刊行)などの登場によって、長編マンガブームがおこった。こうした劇画は、総じて大手出版社が取り上げない内容が多く、その内容をめぐって「悪書」として糾弾されることもあったが、しかし、貸本マンガの中には、前述した水木しげるや、つげ義春(『幕末風雲伝』、1958年刊行)、さいとう・たかを(『台風五郎』、1958年)といった日本の漫画史にその名を刻む稀有な才能が生み出されていったのである。

だが、こうした名作が量産される一方で、貸本マンガの凋落の兆しは既にあらわれはじめていた。1959年には、『少年マガジン』(講談社)、『少年サンデー』(小学館)といった週刊誌が創刊され、さらに、63年には『週間少女フレンド』(講談社)、『週刊マーガレット』(集英社)の少女誌二誌も創刊される。こうした週刊誌の創刊は、マンガを「借りる」ものではなく「買う」ものへと変えてゆく。貸本マンガをめぐるこうした変化は、日本の経済発展とおそらく無縁ではない。1960年の反安保闘争の後、第一次池田内閣の「所得倍增計画」のキャッチフレーズのもとで、経済は右肩上がりに成長し、日本社会は消費を中心とした「高度経済成長」へと突入してゆく。高校進学率も上昇に転じた結果、若年労働者も減少し、貧困に端を発した復讐や犯罪、憤怒などの戦後の日本社会が抱える問題を好んで取り上げた貸本マンガの世界はもはや時代遅れとなってしまったのである。

とはいえ、貸本マンガの終焉の最大の原因は、大手出版社のマンガへの本格参入によって、貸本という消費形態が成立しなくなったことによるのだろう。そうした現象はとりもなおさず「戦後」という風景の消失をも意味していた。だが、今やマンガは日本が誇る文化へと成長し、その豊穡な世界のルーツは間違いなく貸本マンガにあるとあってよい。現在、水木しげるの『墓場鬼太郎』や白土三平の『忍者武芸帳 影丸伝』といった貸本マンガの名作は復刻されており手軽に入手が可能であるため、マンガの歴史に少しでも興味がある人たちには、ぜひとも一読をおすすめしたい。



『墓場鬼太郎』水木しげる／二見書房

## 手塚治虫はなぜ読まれるか？

文学部 非常勤講師 今井 克佳

手塚治虫の『鉄腕アトム』などを素材とした、コンテンポラリー・ダンス作品「テズカTeZukA」が2012年2月に、日本で公開される。2011年9月にロンドンの、サドラーズ・ウェルズ劇場で初演され、来年初頭には渋谷のBunkamuraオーチャード・ホールで上演されるこの作品は、イギリスの気鋭の振付家、シディ・ラルビ・シェルカウイが振付を行い、音楽はやはりイギリスで絶大な人気を誇るミュージシャン・DJのニティン・ソーニーが担当する。また、出演者のなかに日本の若手俳優で、身体能力も高い、森山未来が含まれていることも注目されている。

このプロジェクトは、イギリス、ベルギー、日本の共同製作で、手塚プロダクションも協力しており、東京、ロンドン以外にもヨーロッパ、アジア各地で上演される予定だという。作中には、『鉄腕アトム』の他、『ブラック・ジャック』や『どろろ』など、手塚漫画のキャラクターが登場し、「手塚の作品をそのままダンス化するのではなく、作品から沸き起こる様々なイメージをコラージュのようにつなぎあわせ、膨大な情報量を伴っていた手塚の表現を総体として把握する。そして、善悪を描くのではなくこの世界が果てしないコミュニケーションの行き違いによって成り立つことを描き続けた手塚の世界に現代社会を読み取る」(Bunkamuraホームページより)のだという。

手塚作品の舞台化といえば、日本の歴史を、古代から未来まで描こうとした、未完の大作シリーズ『火の鳥』が、国内では何度も演劇やミュージカルとして舞台化されているが、海外プロジェクトとして、しかも、コンテンポラリー・ダンスとして、手塚治虫が2010年代になってとりあげられるとは思ってもよらなかった。大変、興味深い現象である。もちろん、ヨーロッパではフランスなどを中心に、日本のアニメ文化の影響は強い。この現象は手塚作品をはじめとする、

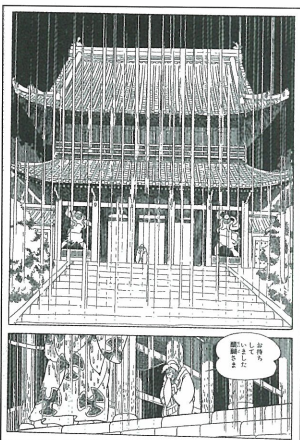
アニメ文化がヨーロッパのアートシーンに、じわじわと影響を与え続けている一つの証であろう。

手塚治虫の漫画(アニメ)は、膨大な領域をカバーしている。子ども向けのエンターテインメントに始まり、『鉄腕アトム』などでは、科学とSFの世界、『ブラック・ジャック』では医学の分野、『どろろ』では妖怪物、そして『火の鳥』では、様々な領域の知識と想像力を総動員しながら、日本の歴史を描き切ろうと試みた。こうした懐の深さとともに、手塚作品に暗い欲望や、生きているがゆえの哀しみ、といったおよそそれまでの「漫画」「アニメ」には似つかわしくない人間の内面が描かれている。そうした手塚自身がかかえていた苦しさの先行し、発想の壮大さもあいまって、ストーリーを破綻させてしまうこともしばしばあった。

しかしそれこそが、手塚作品が読まれ続ける大きな理由ではないだろうか。漫画を「コミック」から、「エンターテインメント」へ、「エンターテインメント」から「文学・思想」へと、グレードアップし続けた道程は、手塚の類い稀な知性と才能に加えて、人間存在が根源的に持つ弱さを自他に認め、苦しみ悩み続けた軌跡であるともいえる。



手塚治虫文庫全集 ブラック・ジャック(2) / ©手塚プロダクション / 講談社



手塚治虫文庫全集 どろろ(1) / ©手塚プロダクション / 講談社



手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム(1) / ©手塚プロダクション / 講談社

## 九段校舎・柏校舎 図書館だより

## OPAC(蔵書検索)、マイライブラリの新機能について

図書館システムのバージョンアップにより、以下の新機能が追加されました。

## ◆マイライブラリでの貸出履歴検索

マイライブラリから、今まで借りた資料の履歴が閲覧できるようになりました。

## ◆貸出ランキング検索

過去6か月の間に貸出回数の多かった資料の一覧をご覧になれます。

トップページ左側メニューの「貸出ランキング」をクリックしてください。

また、今後は以下の機能の追加を予定しております。

## ◆和雑誌タイトルリスト

## ◆電子ジャーナルタイトルリスト

## ◆仮想書架

(検索した資料の隣接に並んでいる資料を調べる機能)

## ◆検索した本の表紙画像の表示と、その資料の Amazon.co.jp へのリンク

## ◆CiNii へのリンク

OPAC(蔵書検索)で紀要などの雑誌を検索した際、検索結果詳細画面の下部に、「CiNii で検索する」というリンクが張られるようになりました。

クリックすると、ISSN で CiNii を再検索します。該当の資料が電子化されている場合は、パソコン上で閲覧することができます。

## 冬期休業期間中の長期貸出のお知らせ

下記の日程で、冬期休業期間中の長期貸出を実施致します。

開始日:2011年12月12日(月)

対象:全利用者

返却期限:2012年1月23日(月)

※長期貸出で貸出手続きを受けた資料は、貸出延長ができません。

10月27日(木)～11月9日(水)まで、秋の読書週間キャンペーンが行なわれました。

## 《九段》

## 《柏》

# 柏校舎 図書館だより

## 柏市立図書館・市内大学図書館合同企画展・講演会

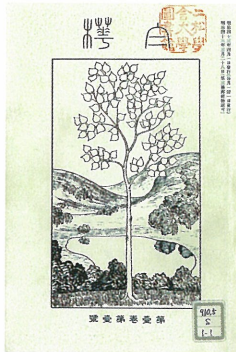
10月29日(土)、午後1時半から柏校舎1号館205教室にて開催した講演会「関東大震災と『白樺』」(講師:本学文学部 瀧田浩 准教授)は、おかげさまで好評のうちに終了いたしました。

また、講演会に併せて開催いたしました企画展「関東大震災と白樺派」にも、多数のご来場をいただき、誠にありがとうございました。

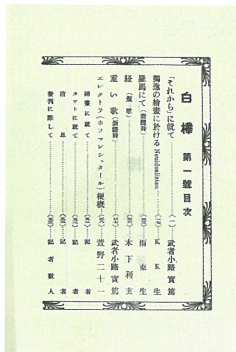
図書館では、当日ご協力いただきましたアンケートを参考に、今後も皆さまに楽しんでいただけるような企画を実施してまいります。

これからも、柏市立図書館と市内4大学図書館の連携事業に、どうぞご期待ください。

柏図書館では、みなさまのますますのご利用をお待ちしております。



『白樺』第壹巻第一號(複製)



同 目次

広報かしわ 平成23年(2011年)10月15日

### 市立図書館・市内大学図書館 合同企画展・講演会

市立図書館と市内4大学の図書館では、今年度の企画展のテーマは、災害に関する講演に加え、大学生・高校生による読書に関する企画展に足を運び、秋の一日をご一緒

#### 東京大学柏図書館

**企画展 関東大震災と東京大学図書館**  
 10月18日(月)～24日(月)午前10時～午後9時※23日(日)は休館。21日(土)・22日(日)は午後5時まで  
 東京大学柏図書館コミュニティサロン  
 大正12年に関東大震災で全焼した東京大学図書館が、ロックフェラー財団の寄付や多くの支援で、昭和3年に鉄骨鉄筋コンクリート造りに生まれ変わるまでの復元の道のりについて展示

**講演会 ビブリオバトル(東大生の知的書評合戦)**  
 10月21日(土)午後2時～4時  
 東京大学柏図書館コンファレンスルーム  
 先着30人  
 大学生がお気に入りの本を持ち寄り、1人当たり5分の紹介と2～3分のディスカッションを行います。最後に投票で1番人気を決定  
 当日、会場へ直接

#### 麗澤大学図書館

**企画展 資料が語る大震災**  
 11月7日(月)～19日(土)午前9時～午後9時30分※13日(日)は休館。12日(日)・19日(土)は午後5時まで  
 麗澤大学図書館ロビー  
 東日本大震災被災地支援ボランティアの活動報告や、震災に関する本・雑誌、新聞の切り抜き展示

**講演会 柏市から発信!今、わたしたちができること**  
 11月12日(土)午後2時～4時  
 麗澤大学図書館 AVホール  
 先着80人  
 麗澤大学・成瀬猛教授と被災地でボランティア活

#### 二松学舎大学附属図書館(柏)

**企画展 関東大震災と白樺派**  
 10月17日(月)～29日(日)午前9時15分～午後6時55分※23日(日)は休館。土曜は午後4時まで  
 二松学舎大学附属図書館(柏)展示資料室  
 14年間で160冊を刊行し、関東大震災により廃刊となった雑誌『白樺』を中心として活躍した作家、武者小路実篤・有島武郎・志賀直哉などの作品を紹介。「白樺」「新思潮」「種蒔(ま)く人」など大正・昭和初期の雑誌(複製)も展示

**講演会 関東大震災と『白樺』—1923年の武者小路実篤・有島武郎・志賀直哉—**  
 10月29日(土)午後1時30分～3時  
 二松学舎大学柏校舎1号館205教室  
 先着100人  
 『白樺』の同人であった武者小路実篤・有島武郎・志賀直哉の、関東大震災が起きた大正12年の動きから、現在につながるものをさぐる  
 二松学舎大学・瀧田浩准教授  
 10月17日(月)午前9時30分から、二松学舎大学附属図書館(柏)へ電話で

#### 市立図書館本館

**企画展 柏の災害と防災**  
 10月25日(日)～11月11日(日)午前9時30分～午後7時※月曜休館。火・土・日曜、祝日は午後5時まで  
 市立図書館本館ロビー  
 柏にかかわる災害関係資料・写真や防災計画や災害時に備えるための「防災グッズ」に関する資料の展示

**講演会 高校生グループ読書バトルINかしわ**  
 10月30日(日)午後1時～4時  
 市立図書館本館第2会議室  
 先着25人  
 麗澤高等学校・柏中央高校・柏南高校の生徒が行った「グループ読書(読書会)」の成果を発表し、投票により優秀作品を選出。「高校生はどうしたら

#### 日本橋学舎大学

**企画展 大震災と日本橋**  
 10月30日(日)まで午前10時～午後4時  
 日本橋学舎大学図書館  
 関東日本大震災を教訓と起こりうる1,000年  
 資料や今後起こる可能

**講演会**  
 ①日本橋の近代建築  
 取り組み  
 ②大震災と日本橋  
 書について—  
 10月29日(土)午前11時  
 日本橋学舎大学図書館  
 先着100人  
 ①藤岡義隆氏・金山  
 ②日本橋学舎大学・五  
 10月17日(月)午前9時  
 市立図書館へ電話で

#### あなたの生活

**図書館**  
 10月30日  
 リサイクル本市  
 午前9時45分  
 市立図書館で  
 に差し上げま  
 持ち帰り用袋  
 連続おはなし会  
 午前10時30分  
 2時から  
 各回先着15人  
 館本等の読み  
 当日、会場へ  
 プラネタリウム  
 午前11時、午

### 《企画展》



### 《講演会》



### 表紙資料解説

#### ぼっけもん

岩重 孝 作・画/ビッグコミックスピリッツ(小学館)  
 作者は、昭和52年(第45回)二松学舎大学文学部国文学科卒業  
 「ぼっけもん」は、デビュー作。現在、「上京花日」をビッグコミック(小学館)に連載中。

#### 二松学舎大学附属図書館 季報 第81号

発行日 平成23(2011)年12月15日  
 発行 二松学舎大学附属図書館  
 九段校舎図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16  
 電話:03-3263-6364  
 柏校舎図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590  
 電話:04-7191-8758  
 印刷所 株式会社 サンセイ  
 電話:03-5614-2515